

平成30年度第3回蔵本技術部門研修会 「マウスの生殖工学技術入門（見学）」開催報告

蔵本技術部門
研究開発支援グループ

矢野 雅司 (YANO Masashi)

1. はじめに

現在、遺伝子の機能解析について重要な役割を果たしているのが遺伝子改変マウスである。本学においても、多くの研究室で複数の遺伝子改変マウスの維持管理を行っている。この遺伝子改変マウスの維持管理に必要な技術として、生殖工学技術がある。

今回、生殖工学技術の初心者の方に見学を通して、生殖工学技術を理解してもらい、新しい技術の習得をするきっかけにしてもらうことを目的として研修会を開催したので報告する。

2. 概要

日時：平成31年3月1日（金）

9時30分～12時00分

場所：徳島大学先端酵素学研究所A棟
2階 カンファレンス室、
5階 遺伝情報解析室

主催：徳島大学技術支援部蔵本技術部門

参加者数：4名（蔵本技術部門3名、
常三島技術部門1名）

3. 内容

今回の研修会では、生殖工学技術の初心者に対して基本的な技術である、体外受精及び胚凍結等について実際に作業を見学してもらって、流れを理解してもらった。



図1 研修会の様子（講習）

3. 1 マウスの生殖工学技術について

生殖工学技術がどのような研究に使われているかについて説明をした^[1]。また、今回の研修会で実施する作業について、スライドを用いて解説をした（図1）。

3. 2 生殖工学技術の見学

実際にマウスを使った使用頻度の多い生殖工学技術（体外受精，胚凍結，胚融解，胚移植）を見学してもらった（図2）。



図2 研修会の様子（見学）

4. まとめ

今回は、生殖工学技術の初心者に対して、どのように行うのか一通り見学してもらった。今後、業務において生殖工学技術を使う機会が出てきた際には、受講者には実際にマウスを使った研修を開催したい。

謝辞

本研修会の開催に関して、蔵本技術部門研修委員会の皆様のご協力により、無事に開催することができたことに感謝いたします。

参考文献

[1] 熊本大学生殖工学技術マニュアル：
<http://card.medic.kumamoto-u.ac.jp/card/japanese/manual/index.html>